

沖代地区条里跡 44次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出・稼働を受け工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

平成28年度の試掘・確認調査件数は前年度より減少しておりますが、本発掘調査は公共工事に伴うものを中心に実施しております。今後、東九州道などへのアクセス道路、インター周辺の開発等が予想されるため、埋蔵文化財を取り巻く状況の厳しさは続くことが予想されます。しかし、文化財は現代に生きる我々が責任をもって未来へ伝えていかなくてはなりません。

本書はこうした開発の中で、中津市沖代町一丁目の集合住宅建設に先立ち、中津市教育委員会が実施した沖代地区糸里跡44次調査の発掘調査報告書です。調査により中世の土器などが発見され、沖代地区糸里跡の歴史を考える上で貴重な調査となりました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護やその理解への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました跡部悦子様をはじめ、関係各位、及び調査に従事して下さいの方々に対し、深甚から感謝申し上げます。

平成29年3月31日

中津市教育委員会
教育長 廣畑 功

例 言

1. 本書は中津市教育委員会が、平成27（2015）年度に行った集合住宅建設に伴う沖代地区糸里跡44次調査の報告書である。
2. 発掘調査費及び報告書作成業務費用は跡部悦子氏の協力を得た。
3. 確認調査・本調査は村上久和（中津市教育委員会嘱託（当時））が担当した。
4. 現場作業は、臨時職員の阿部恵子、上田和幸、奥田誠、河原田実夫、後藤満廣、末廣洋子、深蔵康夫、渡邊正一（故人）の協力を得た。
5. 遺構の撮影は村上が行い、遺構の実測は、臨時職員の穴井美保子、安部方恵、猪立山順子、岩本敏美、橋内順子が行った。遺物実測・遺構図浄書等は、臨時職員の久原彩の協力を得た。遺物の撮影は浦井直幸（中津市教育委員会）が行った。
6. 現場で用いた座標は世界測地系による。
7. 遺構の表記は下記のとおりでである。
SK＝土坑
8. 図面等記録類は中津市歴史民俗資料館に、出土遺物は旧槻木中学校体育館に保管している。
8. 本書で使用した土器・陶磁器の時期認定は以下の文献による。
太宰府市教育委員会「大宰府条坊跡X V-陶磁器分類編」太宰府市の文化財第49集 2000
大分県教育委員会「八坂の遺跡Ⅲ 考察・付論編」大分県文化財調査報告書第150輯 2003
上野淳也「大分県下出土の朝鮮産陶磁器」『大分・大友土器研究会論集』2001
9. SK1出土朝鮮産陶器については、吉田寛氏（大分県教育庁埋蔵文化財センター）のご教示を得た。
10. 本書の執筆・編集は浦井が行った。

目 次

序

例言

第1章	調査の経過	1
	第1節 調査に至る経緯	1
	第2節 調査体制	1
第2章	遺跡の位置と環境	2
	第1節 地理的環境	2
	第2節 歴史的環境	2
第3章	調査の方法と成果	4
	第1節 調査の方法	4
	第2節 調査の成果	4
第4章	総括	6
	写真図版	
	報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	3
第2図	調査区位置図	4
第3図	遺構配置図	4
第4図	調査区南土層	5
第5図	SK1平・断面図・出土遺物	5
第6図	出土遺物	6

表 目 次

第1表	遺物観察表	7
-----	-------	---

写真図版目次

写真図版1	調査区全景（北から）SK1（南から）調査区南土層	11
写真図版2	SK1出土遺物（1）（2）遺構検出時出土遺物	12

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年6月1日、中津市沖代町一丁目512-1外地内の埋蔵文化財包蔵地の照会がなされた。予定地は沖代地区糸里跡に含まれ、かつ掘削工事を伴う集合住宅を建設する計画であったことから、届出の提出が必要であることを指導した。平成28年1月28日、文化財保護法93条第1項の届出が提出され、2月9日に確認調査を実施した。トレンチから土坑が確認されたため、遺構の保存について工事主体者と協議をもった。しかし、工法の変更は困難との結論に至り、遺跡を記録保存するための本調査を行うことが決定した。2月26日、工事主体者と発掘調査委託契約を締結、3月1日から3月12日まで本調査を実施した。

調査の結果、朝鮮王朝産陶器が出土する土坑1基や時期不明の柱穴、水田層などを検出した。

調査終了後、平成28年6月6日に報告書作成業務委託契約を締結、報告書作成作業を開始した。平成29年3月の本書刊行をもって本事業を完了した。

第2節 調査体制

(平成27年度)

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	廣畑 功	(中津市教育委員会教育長)	
調査事務	白木原 忠	(同)	教育次長)
	平原 潤	(同)	文化財課長)
	高崎 章子	(同)	文化財係長兼主任研究員)
	大森 健	(同)	管理係長)
	吉川 奈央	(同)	管理係員)
	長尾 淳平	(同)	管理係員)
担 当	村上 久和	(同)	文化財係嘱託)

(平成28年度)

調査主体	中津市教育委員会		
調査責任者	廣畑 功	(中津市教育委員会教育長)	
調査事務	白木原 忠	(同)	教育次長)
	高尾 良香	(同)	社会教育課長)
	高崎 章子	(同)	文化財室長兼歴史民俗資料館長)
	大森 健	(同)	管理・文化振興係主幹)
	磯貝 奏	(同)	管理・文化振興係主幹)
	長尾 淳平	(同)	管理・文化振興係員)
	陽 麻里奈	(同)	管理・文化振興係員)
担 当	浦井 直幸	(同)	文化財室文化財係員)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万5千人、面積491kmを誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝那馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

沖代地区条里跡は、山国川右岸に形成された沖積平野一帯に広がる条里遺跡である。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡(47)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発見され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代・古代 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(49)や定留遺跡(51)でまともに見られている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺(5)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衛正倉に推定される長者屋敷官衛遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡(37)、踊ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡(6)がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏が替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原道跡 | 25. 福島道跡 | 37. 草場竈跡 | 49. 諸田道跡 |
| 2. 中津城下町道跡 | 14. 大池南道跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 睡ヶ道竈跡 | 50. 定留貝塚 |
| 3. 豊田小学校校庭道跡 | 15. 佐知久保畑道跡 | 27. 前田道跡 | 39. ホヤ池竈跡 | 51. 定留道跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知道跡 | 28. 森山道跡 | 40. 大谷竈跡 | 52. 天貝川道跡 |
| 5. 相原廃寺 | 17. 横道跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依道跡 | 53. 和間貝塚 |
| 6. 三口道跡 | 18. 黒水道跡 | 30. 犬丸川流域道跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫道跡 |
| 7. 相原山首道跡 | 19. 法垣道跡 | 31. 畑中道跡 | 43. 中須道跡 | 55. 是間道跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙道跡 | 32. 安平道跡 | 44. 若旗道跡 | 56. 全徳道跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ボウガキ道跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 十前垣道跡 | 57. ガラヌノ道跡 |
| 10. 弊旗邸古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 野田道跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原道跡 | 35. 才木道跡 | 47. 上畑成道跡 | 59. 石堂池道跡 |
| 12. 勘助野地道跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山竈跡群 | 48. 諸田南道跡 | 60. 舞手川流域道跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

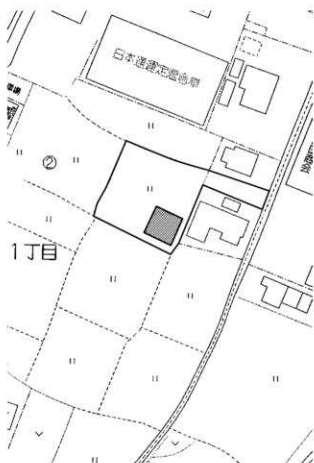
第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

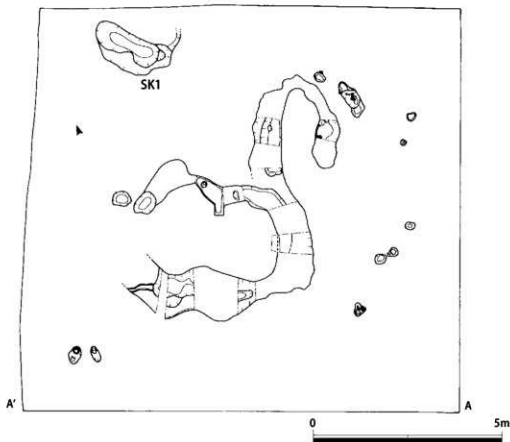
確認調査は2本のトレンチを東西に設定し、重機により遺構検出面まで掘り下げた。本調査は、遺構の存在が明確であった東側の約150mの範囲に限定し、表土剥ぎは重機を使用した。

第2節 調査の成果

地表面から40cm下位で遺構を検出している。調査区内の遺構検出面はほぼ同一レベルである。調査区中央で馬蹄形の遺構を2基確認したが、遺構の状況から風倒木痕と判断した。その周辺で検出した小ピットの深さは浅いものが多い。調査区北側の土坑 (SK1) からは中世の遺物が出土している。



第2図 調査区位置図 (S=1/1,500)



第3図 遺構配置図 (S=1/100)



第4図 調査区南土層 (S=1/100)

第4図は、調査区南壁の土層である。1層は、現代の水田層。2層は、1層の水田床土層。3層は、黒色を呈する水田層。中世土器片が出土することからその時期の水田層の可能性がある。4層は、白色もしくは黄色を呈する地山であり、調査区北側付近で礫が検出面に露出する。

遺構と遺物 (第5・6図)

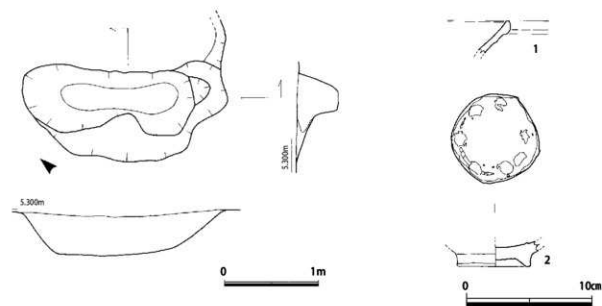
土坑

SK1 (第5図)

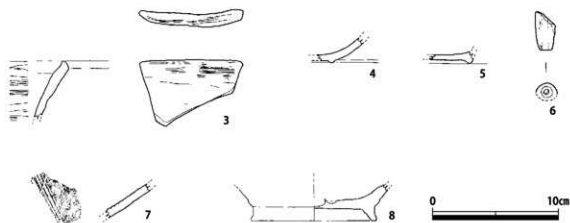
調査区北端に位置する。長さ210cm、幅90cm、深さ40cmを測り、南・東側は一段テラスを有する。遺物は1・2が出土している。1は、白磁碗の口縁部で玉縁状を呈する。11世紀後半から12世紀中頃の所産。流れ込みか。2は、朝鮮王朝産陶器碗で見込に7ヵ所目痕が残る。16世紀末の所産。斗々屋茶碗の類か。

検出時出土遺物 (第6図)

3～8は遺構検出時に出土した遺物である。3は、瓦質土器の鍋口縁部。13世紀中頃の所産。4・



第5図 SK1平・断面図 (S=1/40) ・出土遺物 (S=1/3)



第6図 出土遺物 (S=1/3)

5は瓦器碗で底部に低平な高台が付される。13世紀中頃であろう。6～8は瓦質土器で、6は土鍾。7は播鉢、8は鉢の底部であろうか。

第4章 総括

層序について

ここでは本調査の層序からわかることを整理する。

地山は、調査区北側で礫が露出し、南側は黄白色土の堆積が見られた。地山上には中世期の遺物が出土する3層が堆積している。この層を除去すると遺構が検出されるが、13世紀中頃の遺物が一定量出土している。よって、この3層は13世紀中頃に形成された層と考えたい。

本調査地点から直線距離で南に800mの沖代地区条里跡内の調査では、弥生時代の層序をカットするように古墳～古代と推定される層序が存在する。そして、その上には中世と想定される層が堆積していた。この層が、13世紀中頃であるか不明ながら、中世の一時期に沖代地区条里跡において開発が行われている可能性を示唆する。今後は、この開発が条里内のどの範囲まで及ぶのか調査・把握する必要がある。

遺物について

SK1から朝鮮王朝産陶器が出土した。朝鮮王朝産陶器については、中津城下町遺跡⁽²⁾などで出土しているが、沖代地区条里跡では初出である。条里内における16世紀末の資料は、本調査区より南西1kmの地点で景德鎮産磁器皿が出土している⁽³⁾。先述の中世前半(13世紀代)以降、16世紀末に条里内で何らかの開発が行われたことを想起させる。

今後の周辺の調査に期待したい。

以上、沖代地区条里跡44次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

註

- 1 中津市教育委員会『沖代地区条里跡43次調査』中津市文化財調査報告第74集 2016
- 2 中津市教育委員会『中津城下町遺跡 京町御用屋敷跡』中津市文化財調査報告第21集 1998
- 3 中津市教育委員会『沖代地区条里跡久毛地区・菊又地区・牛踏地区 中津城本丸南西石垣（V）』中津市文化財調査報告第41集 2006

第1表 遺物観察表

掲載 番号	図記 番号	種別・器種	遺構名	法 量 (cm)		調整・紋様	焼成	胎 土	色 調	備 考
				口径・底径	高さ					
1	2	磁器-碗	SK1 P1			内面・回転ヨコナデ 外面・回転ヨコナデ	良好・ 硬質	精緻	透明釉	
2	2	陶器-碗	SK1 P5	底径・5.7cm		回転ヨコナデ	良好・ 硬質	精緻	内面・透明釉 内断面・灰 外面・灰	朝鮮王朝産陶器
3	2	瓦質土器・ 皿	検出時			内面・横方向のハケ目 外面・上部・横方向のハケ目 下部・ハケ目調整のちナデ	良好	白色粒子(0.5mm大)多 精緻	黄土色	
4	2	瓦器碗-碗	検出時			内面・ナデ 外面・ナデ	良好	白色粒子(0.5mm大)微量 黒色粒子(0.5mm大)微量	灰茶色	
5	2	瓦器碗-碗	検出時			内面・ナデ 外面・ナデ	良好	雲母燐粒子 少 角閃石(0.5mm大)少 白色粒子(0.5~2mm大)少 黒色粒子(0.5mm大)微	緑灰色	
6	2	瓦質土器・ 土縁	検出時			ナデ	良好	雲母燐粒子 少 白色粒子(0.5mm大)少 黒色粒子(0.5mm大)微	黄土色	
7	2	瓦質土器・ 楕鉢	検出時			内面・沈線 外面・ナデ	良好	雲母燐粒子 白色粒子(0.5mm大)少 黒色粒子(0.5~3mm大)少	赤褐色	内面・拓本
8	2	瓦質土器・ 碗	検出時	底径・(9.5)		内面・ナデ 外面・ナデ 底面・ヘラ切りのちナデ	良好	雲母燐粒子 白色粒子(0.5~3mm大)多 赤色粒子(0.1mm大)微 黒色粒子(2mm大)微 角閃石(0.1~2mm大)少		

写 真 图 版



調査区全景（北から）



SK1（南から）



調査区南土層

写真図版 2



SK1 出土遺物 (1)



SK1 出土遺物 (2)



遺構検出時出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	おと だい ちく じょうり 跡 じちりき							
書名	沖代地区条里跡44次調査							
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第79集							
編集者名	浦井 直幸							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2017年3月31日							
所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
沖代地区条里跡	大分県中津市 沖代町一丁目512-1外	44203	203007	33° 35' 25"	131° 12' 10"	20160301 ～ 20160312	150㎡	集合住宅 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
沖代地区条里跡	集落	中世	土坑	朝鮮王朝産陶器・瓦質土器		中世の水田層、土坑を検出		
要約	13世紀中頃の土層、16世紀末の朝鮮王朝産陶器が出土する土坑1基を検出した。沖代地区条里跡の開発史を考える貴重な資料を得た。							

沖代地区条里跡 44次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第79集

2017年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 藤川原田印刷社